

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・資格取得への取り組みは十分にできたが、進路希望達成へとつながる基礎学力の向上には改善の余地がある。</p> <p>・挨拶や礼儀作法など、将来の社会人としての資質向上につながる教育には課題が残る。他者への思いやりや郷土愛を育む教育への取り組みにも、一層力を注ぐ必要がある。</p> <p>・コロナ禍でも、地域貢献活動や、地域の各団体との連携による商品開発やメニュー提供、交流活動などを行うことができた。中学生の志願倍率向上のためにも、今後さらに地域とともにある学校づくりに邁進したい。</p> <p>・教職員の時間外在校等時間は減少傾向にある。働き方改革推進としての業務の見直し等は、教職員のモチベーション維持にも配慮し、学校活性化につながるよう留意しながら行いたい。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	<p>農業農業と家庭の専門教育を通して、地域社会に貢献できる有為な人材を育成する。</p> <p>(1) 素直な心で学ぶ意欲と態度を養成する。</p> <p>(2) 専門的な知識・技術を習得し、自ら実践する態度を養成する。</p> <p>(3) 豊かな人間性や社会を生き抜く力を養成する。</p> <p>(4) 勤労、責任、協力を重んじる生活態度を養成する。</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>スローガン『創造と挑戦 “みなみ”から更なる高みへ！』</p> <p>(1) 基礎・基本の定着と学力向上を図り、確かな学力のもとに、より高い目標による進路実現を目指す。</p> <p>(2) 元氣な挨拶、礼儀作法を身に付け、優しさや思いやりの心を醸成し、将来社会人としての資質向上を目指す。</p> <p>(3) 地域との連携を強化し、地域資源の活用や地域貢献を推進する。また、適宜情報発信を行うことで、地域に根ざした信頼される学校づくりを目指す。</p> <p>(4) 働き方を再考し、業務改善を推進することで職場環境の最適化を目指す。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者			
(1)共通評価項目													
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言		
●学力の向上	○専門的な知識や技術の向上	○卒業までに複数の3級以上の資格を取得した者を80%以上にする。 ○日本農業技術検定3級合格率を75%以上にする。 ○家庭科技術検定4級、3級、2級(被・食)の合格率100%を目指す。	○学力優秀者がいないクラスを0にする。 ○早期の進路意識の定着と自発的な学習意欲の向上を図る。 ○第1希望への進路合格率100%を目指す。	・資格は取得しなければならないものという意識を徹底し、積極的に取り組む姿勢を高める。 ・各科、各教科ごとに全体指導、個別指導を徹底し、合格率を向上させる。	B	・3級以上の資格複数取得率は以下のような状況である。3年生:97%、2年生:70%、1年生:0%(9月末現在) ・今後、2学期からは受験機会も多く設定されているため、各担当で生徒の資格取得に向けた指導を強化している。	B	(生産技術科・食品流通科) ・取り組みに関しては学科間の温度差があるが、3級以上の資格複数取得率は3年生:97%、2年生:78%、1年生:31%であった。 ・日本農業技術検定3級の合格率は51%(生活食養科) ・3級以上資格複数取得率は3年生は100%、2年生100%、1年生95%で目標を達成できた。 ・家庭科技術検定では、被服は84%、食物は100%合格することができた。	B	・一人一人の個性に寄り添った指導ができていていると思う。 ・資格指導については、産業構想の変化に合わせて行ってほしい。 ・資格取得がどのような企業への就職に有利になるのか、事例を示し、チャレンジを促してほしい。	・各学科長 ・教頭		
		○生徒の学習意欲の向上と自ら学ぶ力の育成(基礎学力の向上及び家庭学習の充実)	○公開授業週間を設定し、他の職員の授業参観を行い、授業の質の向上を目指す。 ・キャリアパスポートを体系的に取り扱い、有意なものにする。 ・早期に目標設定を行い、情報収集や面接指導のさらなる充実を図り、万全な受験対策を心がける。	・一学期は全てのクラスで学力優秀者がいた。 ・二学期に公開授業週間を設定し、先生方への通知を行っている。 ・進路ガイダンス等の進路行事や「進路だより」等で進路情報を提供することで、80%以上の生徒が進路目標を立てている。 ・3年生は、積極的に面接練習に取り組んでいる。	B	・二学期に公開授業週間を設定し、相互参観及び意見交換を行った。 ・学力優秀者がいないクラスが1クラスあった。インフルエンザの感染が広がり、出席停止で授業に参加できないことが多発したことも影響していると考えている。 ・早期の目標設定や面接指導の充実等により、第1希望への合格率は就職が97.5%、進学が96.1%、全体で96.6%と高い合格率であった。一方、進路希望を変更する生徒も複数いたので、進学先や就職先の情報収集を早期に行うことも重要だと感じた。	C	・学習意欲の向上は、個人の資質や環境に左右されるものですが、学習が「自分事」になる取組を期待したい。 ・現状の満足に留まらずに、努力することで、将来どのような道が拓けるかを卒業生等を通じて伝えて欲しい。	・教務主任 ・進路指導主事				
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育の全体計画に基づいて授業を行った教育を90%以上にする。	○月1回(毎月30日)に各教科・各分掌への実施状況把握確認を行う。 ・取り組み計画時期前に担当者への確認を行う。	・アンケートで「日頃から相手の個性を尊重し、相手を思いやる気持ちを持って行動しているか」に「できた・ほぼできた」に95.1%の回答があった。 ・LHRにおいて、相手を傷つけない言い方について学習した。	B	・アンケートで「日頃から相手の個性を尊重し、相手を思いやる気持ちを持って行動しているか」に「できた・ほぼできた」に95.1%の回答があった。 ・LHRにおいて、相手を傷つけない言い方について学習した。	C	・周囲への配慮や気遣いに欠ける、自分本位の行動が目立つ生徒がおり、学校全体の雰囲気悪い影響を与えている。		B	・少し挨拶をしてくれる生徒が減少しているように思える。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・教育情報化推進リーダー ・各学年主任	
		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止対策等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上にする。	・面談週間や学校生活アンケートを通していじめや人間関係のトラブルの早期発見に努める。 ・対人トラブル予防プログラムや教育心理検査を行う。 ・学期に1回、情報共有会議を行う。	・面談週間や学校生活アンケートの実施、相談窓口の周知を通して、生徒が相談しやすい環境づくりを進めている。 ・「ピア・メディエーションプログラム」を実施し、良好な人間関係に必要なコミュニケーションスキルの意識付けをしている。 ・いじめ防止対策等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員95.3%	B	・面談週間や学校生活アンケートの実施、相談窓口の周知を通して、生徒が相談しやすい環境づくりを進めている。 ・「ピア・メディエーションプログラム」を実施し、良好な人間関係に必要なコミュニケーションスキルの意識付けをしている。 ・いじめ防止対策等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員95.3%	B	・「ピア・メディエーションプログラム」や新入生研修での教育相談講話を実施して、他者との関わり方を学ぶ機会を設けた。 ・悩みを相談しやすい環境づくりのため、教育相談週間実施や学校生活アンケート、相談窓口周知を行い、職員で情報共有してチームでの対応を行った。保健室登校の生徒や長欠者の数は減少した。 ・いじめ未然防止のための組織づくりができていると回答した教員は93%だった。 ・周囲への配慮や気遣いのできない生徒が一定数おり、周囲へ悪影響を与えている。	A	・学校として、今できることは実行できていると思える。 ・外国人留学生との関わりを持たせるなど、校外からの刺激も必要と思う。		・生徒指導主事 ・各学年主任 ・教育相談担当
		◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる。どちらかというと感じる」と回答した生徒を90%以上にする。	・魅力ある講演を企画し、佐賀の魅力を生徒に発信する。 ・総務の時間を利用して、地域の企業について調べ、地元への関心を高める。	・「佐賀県に誇りや愛着を感じる。どちらかというと感じる」と回答した生徒は82%であった。 ・外部講師による授業は、各学科の取組としては実施できている。また、2年生で7月に行ったインターンシップでの成果が期待できる。	B	・「佐賀県に誇りや愛着を感じる。どちらかというと感じる」と回答した生徒は82%であった。 ・外部講師による授業は、各学科の取組としては実施できている。また、2年生で7月に行ったインターンシップでの成果が期待できる。	C	・佐賀県に愛着を感じる。どちらかというと感じると回答した生徒は78%であった。次年度は学年・学科の活動と連携して佐賀の魅力をどう生徒に伝え、いか検討し、佐賀を誇りに思う生徒の割合の向上を図りたい。 ・目標達成へ向けた有効な方策を模索中であるが、継続的な指導が求められる。	B	・学校以前に県が佐賀の魅力アップに努めてほしい。 ・若い人に魅力ある町にするためには市の仕事と思うが、学校には唐津市の歴史を深掘して教えることを期待したい。		
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒95%以上にする。 ○朝食、睡眠がきちんととれている生徒の割合を90%以上にする。	・食育講話を実施する。 ・生活実態調査、食に関する意識調査を実施する。 ・食育だよりを発行する。	・5月に食育アンケート、6月に生活実態調査、7月に食育講話を実施した。アンケートで朝食を食べていると回答した生徒は85%で昨年より朝食を食べている生徒が増加した。アンケートや実態調査の結果を食育だよりに掲載し、発行した。	B	・5月に食育アンケート、6月に生活実態調査、7月に食育講話を実施した。アンケートで朝食を食べていると回答した生徒は85%で昨年より朝食を食べている生徒が増加した。アンケートや実態調査の結果を食育だよりに掲載し、発行した。	A	・11月に健康に関する意識調査を実施した。その中で「健康に良い食事をしている」と回答した生徒は96.7%であった。各教科や食育講話、食育だよりを通して食事の大切さを伝えることができた。	A	・食に関する意識は、農業・家庭の専門学科だけあって、十分に高い意識を持たせていると評価できる。	・保健主事 ・食育推進担当者		
		●運動習慣の改善や定着化	○週1回以上の運動習慣を持つ生徒の割合を75%以上にする。	・アンケートを通して生徒の実態を把握する。 ・授業を通して、運動と健康の大切さを学ばせる。	・アンケートでも、体育の授業における口頭での質問に対しても特に部活を引退した3年生からは運動の大切さがよくなるなどの意見を数多く聞く。	B	・アンケートでも、体育の授業における口頭での質問に対しても特に部活を引退した3年生からは運動の大切さがよくなるなどの意見を数多く聞く。	B	・運動習慣については、体育の授業で週に1、3年生で3回、2年生で2回確保されている。授業以外の場面では、特に運動部活動に入室していない生徒の運動習慣の割合が50%程度であった。次年度も運動の意義について十分に理解させ、実践できる生徒を育成する必要がある。	B		・体育部系の部活動に所属していない生徒の運動不足があるようです。健康管理として適度な運動の大切さを理解、認識させる取組を期待します。	・保健主事 ・体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・職員会議資料の電子化をさらに進め、OneNote等で使用可能とし、見やすさと書き込みができる環境を実現する。 ・定時退勤推進日(毎週水曜日)を励行する。	・職員会議資料の電子化は第2回職員会議から行っている。PDFであってもEdgeの機能で書き込むことができています。 ・提示退勤推進日については朝礼や日報で先生方に伝えている。	B	・職員会議資料の電子化は第2回職員会議から行っている。PDFであってもEdgeの機能で書き込むことができています。 ・提示退勤推進日については朝礼や日報で先生方に伝えている。	A	・時間外在校等時間は年間を通じて概ね昨年度より減少した(各月1時間～1時間半減少)。 ・定時退勤推進日を励行し、職員意識の高まっており、概ね実践できている。 ・一部の職員ではあるが、どうしても土日、祝日での部活動指導(大会等)の振替が校務上取れにくい状況があった。工夫をしていく必要がある。	A	・定時退勤推進日の設定は、今後も励行していただきたい。 ・仕事の効率化は、まずやってみて修正していくことで出てくるものです。他校の良い取組等も参考にしてほしい。	・教頭 ・働き方改革推進委員		
		○年休取得や部活動休業日が設定しやすい環境を整える。	・職員会議と職員研修や各種小会議を同日設定することにより効率化を図る。 ・定期考査の午後に極力行事を入れられないよう行事を精選する。	・行事決定の段階で定期考査の午後に行事を入れられないように配慮できた。 ・職員会議の前後の時間を利用して研修を行うことで部活動や先生方の勤務時間への配慮を行った。	B	・定期考査の午後や長期休業中などに積極的に年休取得を呼びかけ、概ね取得できている。(1月～12月で平均14日取得) ・部活動休業日も遵守できている。	A	・定期考査の午後や長期休業中などに積極的に年休取得を呼びかけ、概ね取得できている。(1月～12月で平均14日取得) ・部活動休業日も遵守できている。	A	・職員の勤務時間に対する意識は高いように思える。引き続き、休暇などを取りやすい職場環境づくりを行って、先生方の健康維持をお願いしたい。			

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★全校ボランティア各学期一回校外で行う。 ★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合を80%以上、教職員の割合を90%以上 ★一般選抜試験志願状況で学校全体の倍率が1.10倍以上を目指す。	・ボランティア活動が実施できるよう日程調整を行う。 ・保育の授業や食物の授業で習っていることを活かし、地域の子どもたちと交流を行う。 ・地域行政(唐津市等)と連携し、子ども食堂等へ学校生産物を提供する。 ・放課後や土日を利用し、地域の子ども食堂や子供のワークショップにボランティアへ行き、一緒に活動する。 ・生徒の学習成果を生かす場として、生徒が先生となる学校開放講座を開く。 ・各科の授業・実習の内容を写真や動画を交えて紹介し、各科への関心や進学意識向上を図る。	A	・中学校で行う学校説明会では、動画、パンフレット、プレゼンテーションを使って紹介し、各科の実習内容や専門教科の多さを紹介し、本校の特色をアピールした。また、来年度高校入試の特別選抜において、新たに設けた「特色ある教育課程推進指定校」募集枠について唐津地区中学校に説明を行った。 ・体験入学では271名(昨年比+22)の中学生が参加し、アンケートの結果、ほぼ全員(97%)がぜひ本校へ入学したいという意見であった。	A	・悪天候のため全校ボランティア活動ができなかった。しかし、本校敷地内の清掃活動を実施することで学校への愛着心を育成することができた。 ・校内における販売会(南高祭を含む)を予定通り計10回行うことができた。地域の方から好評であった。 ・学校開放講座で受講生に喜ばれるとともに農業の楽しさや難しさが分かり、実習に取り組む姿勢に責任感が強くなった。 ・年間を通して、子ども食堂や虹の松原保全活動等、地域のボランティア活動に参加、活躍することができた。 ・保育や食物の授業で習っていることを活かし、地域の子どもたちと楽しく交流を行えた。体験を通じ、将来の進路選択を考える機会を得ることができた。 ・第2回の入学希望調査の結果は特別選抜が1.72倍、一般選抜が1.39倍であった。体験入学、中学校への学校紹介、本校の各種活動がメディアに取り上げられた等により、本校の魅力を伝えることができた。 ・特別選抜2.50倍と高倍率の結果であった。	A	・今の実践されていることを深めることで、さらに新しい発見が出てくると思う。 ・生徒たちの活躍がマスコミにもよく紹介され、南高の魅力アップに繋がっている。高校入試の志願者数も増加しており、高く評価できる。	・専門部長 ・教務主任 ・各学科主任
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり										
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得への取り組みは十分にできたが、進路希望達成へとつながる基礎学力の向上には改善の余地がある。より高い目標設定を促すためにも、さらに充実を図っていきたい。</li> <li>挨拶や礼儀作法など、将来の社会人としての資質向上につながる教育には課題が残る。他者への思いやりや郷土愛を育む教育への取り組みにも、工夫をしていく必要がある。</li> <li>地域貢献活動や、地域の各団体との連携による商品開発、交流活動、インターンシップ等を行うことができた。今後も地域とともにある学校づくりに邁進したい。</li> <li>教職員の時間外在校等時間は減少し、健全な傾向にある。教職員のモチベーション維持にも配慮しながら、業務の見直し、その改善に努め、学校活性化を図りたい。</li> <li>高校入学者選抜の特別選抜に「教育課程枠」を導入し、本校への志願者を増加させることができた。今後も学校の魅力をいかにアピールしていくか検討し、実践していきたい。</li> </ul>									